

株主の皆様へ

2012年3月期
決算報告

2011年4月1日～2012年3月31日

世界各地で拡大する需要に応えるため、 海外展開を加速させました。

当社グループは、「2012中期経営計画」の重点方針に
“成長する海外市場への的確な対応”を掲げており、
アジアを中心とした海外市場での需要の高まりに応えるべく、
世界各地で積極的な生産および販売の拡充を推進しています。

2011

7月13日

中国

アルミニウム部材を駆使した電気自動車「エバワン」をはじめ、当社が開発した多数の製品をアジア最大規模の「ALUMINIUM CHINA 2011」に出展



8月1日

アメリカ

▶ 詳細はP5
[Close up]参照

米国第4位のアルミニウム板
圧延製造販売会社を買収し、
アルミニウム缶需要世界一の
米国市場への供給を展開



ルイビル 

North America



Japan

China

Thailand

無錫

上海

アマタシティ

11月4日

タイ

▶詳細はP5

[Close up]参照

東南アジアでの需要拡大に
えるため、国内アルミニウム
メーカー初となる、海外での
板圧延の一貫生産工場建設を
発表



12月1日

中国

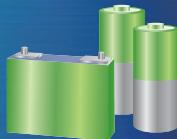
都市開発ラッシュで高まる重
電制御機器や鉄道車両での需
要にえるため、アルミニウム
加工製品の製造・販売会社を
設立



リチウムイオン二次電池の高容量化ニーズに 応える集電体「ファスポーラス」を開発

古河スカイは、リチウムイオン二次電池の高容量化を実現する集電体「ファスポーラス」を開発しました。リチウムイオン二次電池は電気自動車や産業用蓄電モジュールなどで使用され、ますます高容量化が求められますが、「ファスポーラス」はそれにえるものとして期待されています。

▶詳細はP9 「アルミニウムの豆知識」参照



新幹線用アルミニウム製吸音パネルが 日本アルミニウム協会賞の「開発賞」を受賞

古河スカイが東日本旅客鉄道(株)、川崎重工業(株)と共同開発した新幹線用アルミニウム製吸音パネルは、東北新幹線の新型車両に採用され、高速走行時の騒音が増大するのを防止しています。高速走行する営業車両への搭載は世界初の快挙であり、2011年度日本アルミニウム協会賞の「開発賞」にも輝いています。





厳しい事業環境のなか、
「アジアNo.1カンパニー」を
目指した施策を
着実に遂行しました。

代表取締役社長
岡田 満

Profile

1956年(昭和31年)兵庫県生まれ。京都大学大学院工学研究科修了後、1982年に古河電気工業に入社。2008年に当社福井工場長に就任し、同年に取締役昇進。2010年より常務取締役を務め、2012年6月に代表取締役社長就任。研究から生産技術、生産管理、さらには海外工場の立ち上げまで幅広い経験を持つ。

株主の皆様には、日頃より温かいご支援を賜り、心より感謝しております。2012年6月の定時株主総会および取締役会をもって、新たに代表取締役社長に就任いたしました。当社にとって非常に厳しい環境下での就任に、身が引き締まる思いですが、事業基盤の強化と業容拡大を実現できるよう、率先して取り組んでいく所存です。皆様には、今後もより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

Q 当期の事業環境ならびに業績はいかがでしたか？

A 東日本大震災の影響や世界的な景気悪化により大半の分野でアルミニウム圧延品の需要が減少したため、減収・減益となりました。

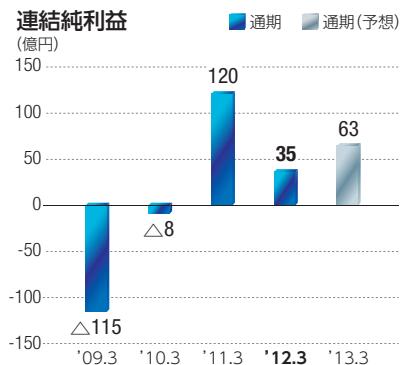
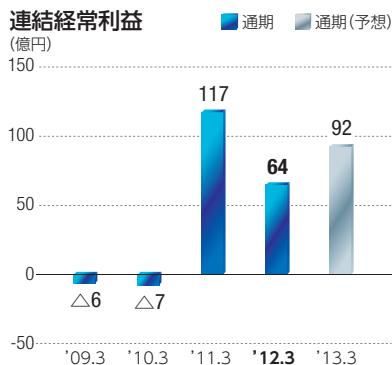
当期の経済環境は、欧米の財政問題に起因する世界的な経済停滞のなか、東日本大震災やタイ洪水の影響に加

え、円高の進行や燃料価格の高騰、さらには電力コストアップなど、非常に厳しい状況でした。

アルミニウム圧延品の出荷数量を見ると、上半期は主力の飲料用缶材は増加したものの、震災や景気悪化の影響で自動車や電子機器分野などが大きく数量を落とし、下半期も欧州金融不安に歴史的な円高、さらにはタイ洪水など悪条件が重なり、通年で大きく減少しました。

こうした環境のなか、当社グループの売上数量は、自動車熱交換器用材料、メモリーディスク材、液晶・半導体製造装置向け厚板など、国内、輸出ともに大半の分野で減少し、全体で前期比約8%の減少となりました。これに加えて、燃料価格や電力単価の上昇などにより、製造コストも悪化しました。

このように、事業環境に恵まれた前期と比べて非常に厳しい環境となったことから、当期の連結売上高は1,940億円(前期比6.4%減)、営業利益は64億円(前期



比48.5%減)、経常利益は64億円(前期比45.1%減)、当期純利益は35億円(前期比70.4%減)となりました。

こうした厳しい状況ではありますが、株主の皆様に対する配当は、予定通り中間配当3円、期末配当3円の計6円としました。

Q 当期に取り組んだ
主な施策を教えてください。

A “アジアNo.1カンパニー”に向けて、
海外各地で生産能力を増強したほか、
アメリカおよびタイに生産拠点を
新設・拡充しました。

当社グループでは、2010年度からの3カ年の中期経営計画において、国内事業の構造改革により事業基盤を強化するとともに、成長する海外市場への確に対応していくための施策を進めています。

当期の特筆すべき成果としては、海外各地で生産拠点の新設と拡充を進め、グローバル市場における多様なニーズに対応できる体制を整備したことが挙げられます。

米国では、8月にアルミニウム板圧延製造販売会社を買収しました。当社グループとしては初の北米生産拠点であり、北米市場への供給はもちろん、今後の需要拡大が見込まれる中南米市場への足がかりとしても期待されます。

また、タイでは、アルミニウム板圧延品の一貫生産を行う新工場の建設に着手しています。国内構造改革にとまなう日光工場の休止設備を移設することでスタートする新工場は、拡大するアジア需要に応える一大生産拠点としての役割が期待されています。

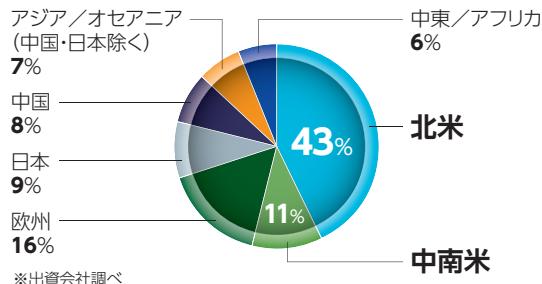
これらに加え、中国では放熱部品を主体とするアルミニウム加工品工場を立ち上げ、ベトナムでも自動車関連需要の拡大を追い風にアルミニウム鋳物の生産設備を増強するなど、厳しい環境下ではありますが、当期は中長

Close up

世界のアルミニウム缶市場の4割を占める米国で、 世界最大規模の製造拠点を確保

当社は2011年8月、国内4社との共同出資(当社出資比率35%)により、米国で世界最大級のアルミニウム板圧延製造販売会社を買収しました。米国は世界のアルミニウム缶需要の4割強を占める市場であり、今後もさらなる拡大が見込まれています。当該工場は、世界でも最小のコストで同市場の旺盛な需要に応えるだけの供給力を有しています。

世界のアルミニウム缶材需要シェア



期の経営ビジョンである“アジアNo.1の魅力あるカンパニー”に向けて、着実に前進した一年となりました。

Q 来期の業績見込みを教えてください。

A 強靱なコスト体質の実現と、海外生産力の拡充で、増収・増益を目指します。

来期は欧米の財政問題や円高などの影響は残るものの、海外市場を中心に、下半期に向けて景気は緩やかに回復するものと見られています。

こうした状況のなかで、国内では、板圧延事業の構造改革を計画通り遂行し、強靱なコスト構造を構築したいと考えています。一方で、海外においては成長・拡大する地域での製造・供給体制を引き続き増強し、拡大していく需要に応えることで、古河スカイグループの確かな成長につなげます。

来期のトピックスとして、大きく期待できるのがLNG船向け板材の需要拡大です。原発事故に起因するエネルギー問題の顕在化により、LNG(液化天然ガス)が脚光を浴びるなか、世界的なLNG開発プロジェクトの促進とともに、LNG船を新規に建造する動きが活発化しています。当社でもすでに複数の大型案件が内定しており、今後、アルミニウム厚板受注が大きく拡大する計画です。

以上のような状況を踏まえ、来期は大幅な増益を見込んでいます。具体的な業績見通しは、売上高1,940億円、営業利益82億円、経常利益92億円、当期純利益63億円を予定しています。

代表取締役社長 岡田 満

顧客の現地調達ニーズに応える、日本アルミニウム業界初の海外板圧延一貫生産工場をタイに建設

当社は成長・拡大するアジア市場でのアルミニウム板材需要の高まりに応えるべく、2011年11月にタイ新工場の建設決定を発表。日光工場の冷間圧延機などを移設して、2014年1月の生産開始を目指しています。新工場は溶解から鋳造、圧延、仕上げまでを担う、国内アルミニウム圧延会社では初となる海外での板圧延一貫生産工場として、需要が高まるアジア地域の顧客ニーズに対応します。





暮らしの中の
古河スカイ
第2回

自動車市場の将来とアルミニウム

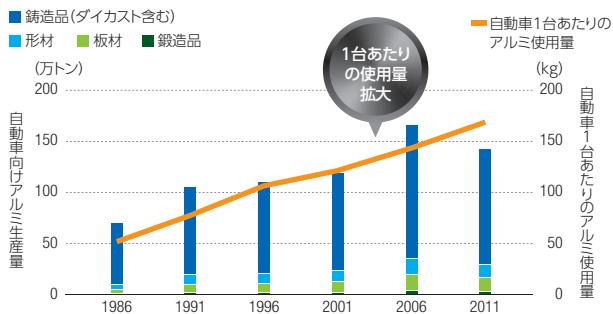
アジアをはじめとした新興国を中心に自動車需要が高まるなか、古河スカイは車体軽量化ニーズに応えるアルミニウム素材を幅広く提供しています。

自動車軽量化の鍵を握るアルミニウム

燃費向上を目指して、自動車部材のアルミニウム化ニーズが高まるなかで

環境意識の高まりや原油価格の高騰を背景に、自動車業界では燃費向上が最重要課題となっています。燃費を向上させるには、エンジンの燃焼効率向上とともに車体の軽量化が不可欠です。そこで、鉄や銅に比べて軽量なアルミニウムへの注目が高まっており、自動車1台あたりのアルミニウム使用量が急激に増加しています。

自動車向けアルミニウム需要の推移



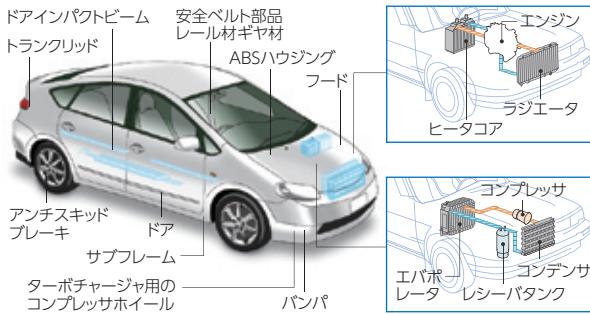
出所: (一社)日本アルミニウム協会調べ



国内トップメーカーとして、自動車部材のアルミニウム化を牽引

古河スカイは、自動車・部品メーカーにアルミニウム素材を提供してきたノウハウを活かし、自動車ボディーに最適な高温成形用アルミニウム合金を開発。このほか、国内トップシェアを誇る熱交換器材、世界でも数社しか生産できないコンプレッサホイールなど、付加価値の高いアルミニウム製部材を世界の自動車・部品メーカーに提供しています。

自動車におけるアルミニウムの適用例



Q コンプレッサホイールの需要が伸びているのはなぜ？

A 自動車の環境・燃費対策として注目されるターボチャージャの基幹部品だからです。

自動車に対する燃費規制や排ガス規制が厳しくなるなか、欧州市場を中心に普及しているディーゼル車向けにターボチャージャの導入が加速しています。その基幹部品であるコンプレッサホイールはアルミニウム鋳物ですが、毎分15万回転を超える高速回転に耐えるために、強度に加えて寸法精度や回転バランス特性が求められるなど難易度が高く、量産できるのは世界でも数社だけ。古河スカイは、その数少ない存在として、ベトナム現地法人において高品質なコンプレッサホイールを生産しています。

古河スカイは
世界トップシェアの
36% (当社推定)
を獲得!

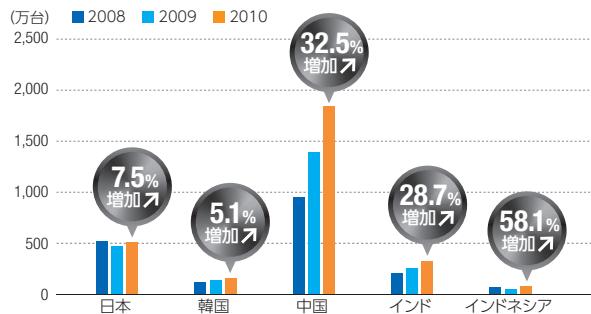


伸び行くアジアの自動車産業

中国をはじめ新興国での需要拡大に 応えるために

近年の自動車市場の拡大を支えているのは、BRICsや東南アジアなどの新興国です。特に中国では、販売台数が2009年の1,362万台から2010年には1,804万台と、1年で3割以上も増加しています。こうした需要の高まりに応えるため、中国をはじめアジア諸国の自動車産業が急成長し、自動車向けのアルミニウム需要も高まっています。

自動車販売台数推移



経済産業省「通商白書2011」より作成

▶▶▶ アジアでの供給力を強化し、 現地の自動車産業の成長に貢献

古河スカイは、中国をはじめ、インドネシアやタイ、ベトナムなど、アジア各地に製造・販売拠点を設立し、現地の自動車・部品メーカーに高品質なアルミニウム部材を提供してきました。2010年度からスタートした中期経営計画でも、「アジアでの生産設備増強」を方針に掲げ、供給力の強化に努めています。

アジアの製造・販売拠点



リチウムイオン二次電池とアルミニウム

Q リチウムイオン二次電池ってどんな電池?

A 充電して繰り返し使える「二次電池」のなかでも、モバイル機器向けの小型・軽量化に適した電池です。

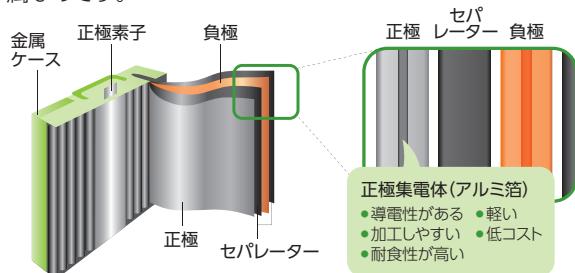
スマートフォンやノートPC、デジカメ、携帯ゲーム機など、今や私たちの生活に欠かせないモバイル機器。これらを長時間にわたって連続使用できるのは、コンパクトかつ大容量な二次電池の存在があるからです。リチウムイオン二次電池は、これまでの二次電池に比べて高電圧で、エネルギー密度に優れ、小型・軽量化に適していることから、モバイル機器向けの需要が拡大の一途をたどっています。



Q アルミニウムが使われるのはなぜ?

A 他の金属よりも耐食性に優れた素材だからです。

電池を充電するとき、正極では酸化反応が起こるため、銅などの腐食しやすい材料ではなく、耐食性に優れたアルミニウムが用いられます。これに加えて、導電性、加工のしやすさ、コストの面からも、アルミニウムは正極素材として最適な金属なのです。



Q 今後、求められるものは?

A スマートグリッドや自動車での利用に向け、大容量化が求められています。

エネルギー問題や環境問題などを背景に、二次電池の用途がスマートグリッド(次世代送電網)や電気自動車などに拡大するなかで、さらなる大容量化が求められています。古河スカイは大容量化に適した次世代の正極集電体「ファスポーラス」を開発するなど、リチウムイオン二次電池の可能性を拓く技術開発に注力しています。

大容量化が進めば、スマートシティも実現?!



株主プラザ

株主の皆様とのコミュニケーションの場として、最新のイベント情報やアンケート結果などを報告するコーナーです。

工場見学会について

今年度から**同伴者**の方も参加いただけます。



当社では、2011年度に引き続き、2012年度も株主様を対象とした工場見学会を開催します。より多くの方々に当社を知っていただきたいとの思いから、今回は株主様に加え、同伴者の方(1名)も参加いただけます。

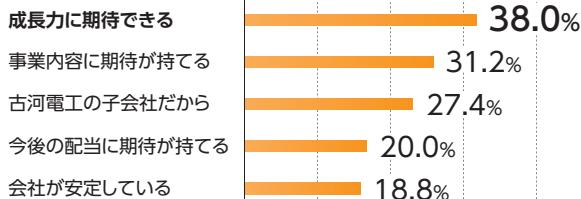
今年は、6月24日に開催。多くのご応募の中から抽選で選ばれた30名の株主様と、同伴者の方に、工場および技術研究所におけるアルミニウム圧延品の製造工程や最新技術設備を案内し、映像・パネル展示などとあわせて、当社技術の高度さとアルミニウム市場の広がりをご紹介します。



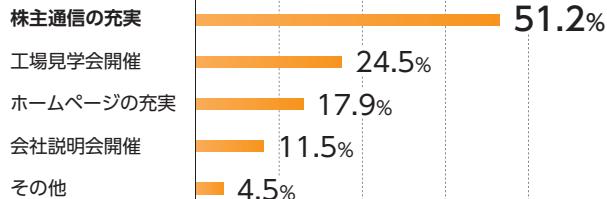
「株主様向けアンケート」の結果について

当社は株主の皆様とのコミュニケーション強化を図るため、昨年秋に「株主様向けアンケート」(2012年3月期上半期報告書に同封)を実施し、686通ものご回答をいただきました。期待いただいている“成長力”については株主通信「株主の皆様へ」で取り上げるなど、皆様からいただいたご意見、ご要望を今後の事業活動やIR活動に反映していきます。

Q1 当社の株式を購入した理由



Q2 希望するIR活動の内容(複数回答あり)





損益計算書

単位:百万円(四捨五入)

科目	期別	前連結会計年度 (2010年4月1日～ 2011年3月31日)	当連結会計年度 (2011年4月1日～ 2012年3月31日)
売上高		207,223	193,972
売上原価		178,318	171,318
売上総利益		28,905	22,654
販売費及び一般管理費		16,566	16,294
営業利益		12,338	6,360
営業外収益		807	1,352
営業外費用		1,466	1,301
経常利益		11,680	6,411
特別利益		78	159
特別損失		1,260	442
税金等調整前当期純利益		10,498	6,128
法人税、住民税及び事業税		1,292	1,160
法人税等調整額		△2,889	1,323
少数株主利益		127	105
当期純利益		11,968	3,540

POINT
1

貸借対照表

単位:百万円(四捨五入)

科目	期別	前連結会計年度 (2011年3月31日)	当連結会計年度 (2012年3月31日)
資産の部			
流動資産		112,782	102,670
固定資産		105,096	110,328
有形固定資産		89,417	85,766
無形固定資産		1,890	1,574
投資その他の資産		13,789	22,987
資産合計		217,878	212,998
負債の部			
流動負債		88,169	91,261
固定負債		59,802	50,559
負債合計		147,971	141,819
純資産の部			
株主資本		69,995	71,978
その他の包括利益累計額		△633	△1,394
少数株主持分		546	596
純資産合計		69,907	71,179
負債純資産合計		217,878	212,998

POINT
1

キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円(四捨五入)

科目	期別	前連結会計年度 (2010年4月1日～ 2011年3月31日)	当連結会計年度 (2011年4月1日～ 2012年3月31日)
POINT 2 営業活動によるキャッシュ・フロー		20,434	17,609
投資活動によるキャッシュ・フロー		△7,070	△21,083
財務活動によるキャッシュ・フロー		2,700	△7,526
POINT 3 現金及び現金同等物に係る換算差額		△60	△29
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		16,005	△11,029
現金及び現金同等物の期首残高		4,111	20,115
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)			2,253
現金及び現金同等物の期末残高		20,115	11,339

POINT 1

「営業外収益」と「投資その他の資産」の増加

米国のアルミニウム圧延会社を買収したことなどにより「投資その他の資産」が増加しました。また、同社を含め、イギリス・中国の持分法適用会社の利益が「営業外収益」に大きく貢献しました。

POINT 2

「投資活動によるキャッシュ・フロー」の支出増加

米国のアルミニウム圧延会社を買収したことなどにより、支出が増加しました。

POINT 3

「財務活動によるキャッシュ・フロー」の支出増加

有利子負債の返済(61億円)、および配当(14億円)を実施したため、支出が増加しました。

株主資本等変動計算書 (2011年4月1日～2012年3月31日)

単位:百万円(四捨五入)

	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計		
2011年4月1日残高	16,528	35,184	18,284	△2	69,995	193	157	△982	△633	546	69,907
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△1,363		△1,363						△1,363
当期純利益			3,540		3,540						3,540
自己株式の取得											
連結範囲			△195		△195						△195
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						△13	△579	△169	△761	50	△712
連結会計年度中の変動額合計			1,983		1,983	△13	△579	△169	△761	50	1,272
2012年3月31日残高	16,528	35,184	20,267	△2	71,978	180	△423	△1,151	△1,394	596	71,179



会社概要 (2012年3月31日現在)

社名	古河スカイ株式会社
ホームページ	http://www.furukawa-sky.co.jp/
事業内容	アルミニウム製品および アルミニウム合金製品の 製造、加工、販売
設立	2003年10月
資本金	165億2,840万円
従業員数	3,644名(連結)、1,959名(単体)
主要な営業所	本 社 東京都千代田区
および工場	営業所 関西支社(大阪市北区) 中部支社(名古屋市東区) 九州支社(福岡市博多区) 工 場 福井工場、深谷工場、 日光工場、小山工場 研究所 技術研究所(埼玉県深谷市)

役員

代表取締役社長	岡田 満
専務取締役	楠本 昭彦
常務取締役	長南 邦年 渡辺 幸博 長谷川 久 中野 隆喜
取締役(社外)	内藤 秀彦
取締役	吉原 正照 田中 清 土屋 博範 福井 裕之 新堀 勝康
常勤監査役	石原 宣宏
監査役(社外)	櫻 日出雄 菅野 幹宏 森 高弘



株式の状況 (2012年3月31日現在)

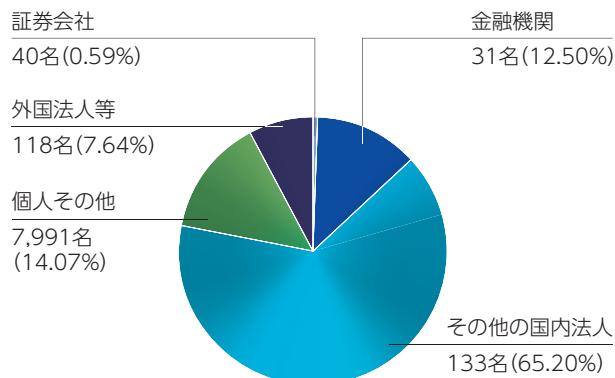
発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式総数	227,100,000株 (自己株式12,273株を含む)
株主数	8,313名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
古河電気工業株式会社	120,365	53.00
新日本製鐵株式会社	18,700	8.23
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	10,545	4.64
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	7,553	3.32
古河スカイ従業員持株会	4,713	2.07
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口9)	2,500	1.10
丸紅株式会社	2,271	1.00
三井物産株式会社	2,271	1.00
メロン バンク エヌイー アズ エージェント フォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション	1,792	0.78
チェース マンハッタン バンク ジーティーエス クライアント アカウント エスクロウ	941	0.41

(注)持株比率は自己株式(12,273株)を控除して計算しています。

所有者別の構成比率(株式数比率)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
特別口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告 (http://www.furukawa-sky.co.jp/) (やむを得ない事由により、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	お取引の証券会社になります。	0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 (トラストラウンジを除く) みずほインバスターズ 証券株式会社本店および 全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。

(※)未払配当金の支払のみ、みずほ銀行でもお取扱いいたします。

- 確定申告の際には、同封の配当金計算書をご利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主様については、お取引の証券会社にご確認ください。

古河スカイのウェブサイトが 各評価機関で、高い評価を獲得しました。

昨年10月にリニューアルした古河スカイのウェブサイトが、日興アイ・アール株式会社の「2011年度 全上場企業ホームページ充実度ランキング調査」において、総合ランキング16位、業種別ランキング1位に選ばれ最優秀サイトの1社になりました。

また、モーニングスター株式会社の「Gomez IRサイト総合ランキング 2012」においても、業種別ランキング1位となり銅賞に選ばれ、大和インバスター・リレーションズ株式会社の「2011年インターネットIR・ベスト企業賞」においては優良企業賞を受賞しました。

今後もさらにウェブサイトを充実させるとともに、わかりやすく使いやすいサイトの構築を目指してまいります。



<http://www.furukawa-sky.co.jp/>

古河スカイ株式会社

〒101-8970 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX12階
TEL (03) 5295-3800(代表) FAX (03) 5295-3760
<http://www.furukawa-sky.co.jp/>

